

会議録（要旨）

件名	平成30年度 第1回亀岡市行政改革推進委員会		
日時	平成30年7月20日（金）		
	午後1時30分～3時40分	場所	市役所6階 602・603会議室
出席委員	11名：牛田眞／桂喜久子／木藤伸一郎／木村好孝／串崎哲史／坂本信雄 佐藤裕見子／多胡麻衣／松尾和美／松本圭史／森下明美		
欠席委員	3名：大嶋雅子／木戸庸介／服部公子		
事務局出席者	6名：企画管理部長／企画管理部地方創生担当部長／企画調整課長 他		
傍聴者数	0名		
次第	1 開会 2 平成30年度 当初予算の概要及び亀岡市の財政状況について 3 議事 （1）平成29年度収納率向上対策に係る取組結果（5月末）について （2）平成29年度行財政改革実施計画の取組結果について （3）平成30年度行財政改革実施計画について 4 その他 （1）行財政改革の取り組みについてのアンケート調査結果 5 閉会		

1 開会（企画調整課長 進行）

只今より平成30年度第1回亀岡市行政改革推進委員会を開催する。

《事務局紹介》

本日、大嶋委員、木戸委員、服部委員については欠席の連絡をいただいている。過半数以上の出席をいただいているので本委員会は成立している旨、御報告申し上げます。

会長挨拶

今年に入ってから地震、大雨があり、その前にはJR嵯峨野線の倒木があった。災害対策の公共工事関連についても大きな予算になる。

また、京都学園大学は来年の4月、京都先端科学大学に校名が変更になる。今年の入学式後に、永守理事長が記者発表されたが亀岡キャンパスについては、活性化構想がプランとしてできあがりつつある。内容としては、亀岡キャンパスに電気自動車のテストコースを作ること、そしてドローン等の実験施設を設置すること、また2020年に太秦キャンパスに工学部及び工学研究科を開設するが、その実験施設等の再整備を行うとともに亀岡市と共同で補助金の申請をしている段階である。亀岡市としては、京都スタジアム（仮称）と明智光秀公と併せて今後の起点となるかもしれない。

本日はアンケートに答えていただいた内容も含めて議論いただきたい。よろしくお願ひする。

事務局（企画調整課長）

新しい委員の紹介をさせていただく。亀岡市社会福祉協議会の小川委員が退任されたので、新たに木村委員に御参画いただくこととなった。

また、亀岡経済同友会の役員交代に伴い、前平委員が退任されたので、新たに串崎委員に御参画いただくこととなった。

委員

よろしくお願ひする。

委員

分からないことも多いので、勉強させていただきたい。よろしくお願ひする。

2 平成30年度 当初予算の概要及び亀岡市の財政状況について

財政課長 《資料1-1、1-2に沿って説明》

『平成30年度当初予算の概要』について

- <当初予算規模>
- <重点事業>
- <第4次総合計画施策の大綱>
- <歳入・歳出の状況>
- <市債の発行と残高の推移>
- <基金残高の推移>

の各詳細を説明。

事務局（企画調整課長）

只今、財政課長から平成30年度当初予算の概要及び亀岡市の財政状況について説明させていただいた。この説明について御意見や御質問を受けたい。

A 委員

こういった説明で全体を把握することになるのだが、併せて主要な財政収支比率なども説明していただきたい。また、府内の各市町村の比較をしていただきたい。

財政課長

主要な財政指標は決算に基づいて算出する。平成29年度決算分は京都府で検証中であるため、今、御報告できる段階ではない。平成28年度決算分については、市ホームページに

掲載している。主要な指標については、委員会で説明できるよう今後考えていきたい。

B 委員

平成30年度当初予算会計別予算額前年度比較の資料で、介護保険事業会計が対前年度比88.5%となっている。介護保険事業のどの辺りを縮減されたのか。将来介護が必要になる人への影響はないのか。

財政課長

介護保険の予算は、介護保険の事業計画を策定し、3カ年の計画に基づいた予算編成をしている。計画であるため、実績と計画内容が乖離することがある。計画通りに介護給付サービスが伸びなかったため乖離することになった。平成29年度当初予算では約75億円の予算を組んでいたが、結果として利用実態からは過大となっていた。平成30年度の予算を組む時に、実質必要な額を算定し、この予算額になっている。心配いただいていた、どの部分の介護サービスを削減したということはない。

C 委員

その計画はどの部署が作ったのか。

財政課長

高齢福祉課である。平成29年度に策定して平成30年度から新しい計画がスタートしている。

C 委員

計画を作ったのは初めてか。

財政課長

計画は過去何期も作られている。3カ年の計画であるため、計画と実質が乖離していく。その乖離が大きくなった年が平成29年度であった。

D 委員

一般会計歳出性質別構成グラフでは、人件費、扶助費、公債費といった必要経費がほとんどを占めている。普通建設事業費の額が昨年度と比べると約25億円少なくなっているが、これはスタジアムの分か。

財政課長

そうである。普通建設事業費が25億円ほど減少しているうちの約20億円はスタジアムの関係である。

D 委員

必要経費が増えることによって、建設事業の自由裁量が減っているということはないのか。

財政課長

市町村の裁量で使える金額の多少は経常収支比率で表す。亀岡市は、平成29年度は約97%であった。平成28年度は府下でも上位だったが年度によって異なるため、一概に良いとは言えない。どこの市町村でも経常収支比率は高くなってきており、自由に使える額は減ってきている。

E 委員

臨時財政対策債は平成21年度と比べると平成30年度は倍近くになっている。国からどのような仕組みで返ってくるのか教えてもらいたい。

財政課長

臨時財政対策債については、発行可能額が国から示される。地方交付税の普通交付税の算定額と実際の交付額との差が発行可能額となっている。国に財源がないため、交付税を払う代わりに亀岡市が借金をしてもいいと認めるものが臨時財政対策債で、亀岡市は本来もらえる普通交付税がもらえないため、今までは、臨時財政対策債を可能額まで借りている。借金をして、臨時財政対策債分が市の歳入となり、20年償還で返済する。国の交付税も20年分割で亀岡市に入ってくる。臨時財政対策債の発行額は、国の財源がないために増えてきている。

A 委員

国の財政事情からすれば危うい財源である。いつまで続くのかを考えていかないといけない。

F 委員

最近いろいろな災害が起こっている。災害が発生した場合、大きくお金がかかると思うが、災害に対する予算はどうなっているのか。

財政課長

基金の中に財政調整基金がある。これは災害等のときに財源の調整として使うことができる。国・府からの補助金もあるが、一般財源分は財政調整基金を取り崩して使っていく。災害救助法の適用を受けると一般財源の持ち出しが少なくなるが、今回の災害はそれにあたらぬ。

また、災害復旧費に約100万円の予算を組んでいる。今後災害が起こると、増額の補正

予算を組むことになり、その財源として財政調整基金を充てることになる。

3 議 事

(1) 平成29年度収納率向上対策に係る取組結果（5月末）について

資料2-1、2-2、2-3

事務局 <<資料に沿って事務局から説明>>

会長

最初から口座振替を原則にしている料金はあるのか。

事務局

保育料は、平成29年度から原則口座振替でお願いしている。

G 委員

ペイジーは、パソコンやスマートフォンからでもできるものか。

事務局

本市でのペイジーは、窓口での口座振替の申し込み時に、今までは口座番号と銀行印が必要であったが、銀行のキャッシュカードを専用端末に通すことで、口座振替の申し込みができるようになるものである。

G 委員

幼稚園保育料や放課後児童会負担金はペイジーを扱うようになるのか。

事務局

各課での対応となるのだが、機械の購入等の初期費用がかかるため、ある程度の件数がないと効果が上がらない部分もあり、件数の多い市税や国民健康保険料、保育料等で始めている。

D 委員

住宅使用料にコンビニ収納を導入することで収納率を上げることができるのではないかと。

A 委員

収納率の向上のためには、今おっしゃったようにコンビニ納付も導入した方がいいと思う。

D 委員

各料金等を見ていると、コンビニ収納率が上がっている。なかなか収納率が上がらない料

金はコンビニ収納を導入することも有効ではないかと思う。

(2) 平成29年度行財政改革実施計画の取組結果について

資料3-1、3-2、3-3

事務局 <資料に沿って事務局から説明>

会長

平成30年度当初予算の概要及び亀岡市の財政状況についての内容に戻るが、病院事業特別会計は、総額のうち市立病院に何億円を繰出しているのか。

取組項目として、市立病院新改革プランを立て取り組みを行うことで達成したという話であがっているが、事業会計規模が分かる数値で目標を立てていないため、年間の決算等で数字が分かるようであれば知りたい。

H委員

市立病院は現金預金も減ってきている状況であり、大変厳しい運営状況となっている。

会長

平成29年度のチェックはこれで終了となる。平成29年度の実施計画の取組結果は了承いただけるか。

<委員了承>

事務局（企画調整課長）

先ほどの病院事業特別会計の繰出金の関係について財政課に確認した。平成30年度当初予算の繰出金は5億5,000万円で、内訳は、病院があることで市に入る交付税措置分が2億7,600万円、一般財源が2億7,400万円である。参考に平成29年度の決算ベースでは、繰出金が5億8,000万円、内訳は交付税措置が2億8,000万円、一般財源が3億円である。決算ベースの平成29年度と当初予算ベースの平成30年度で繰出金を比較すると3,000万円減っている。

(3) 平成30年度行財政改革実施計画について

資料4

事務局 <資料に沿って事務局から説明>

会長

新規項目としている公共施設における電気使用量の削減については、ふるさとエネルギー（株）を立ち上げ、公共施設を中心に電力供給を行うものである。

ふるさと納税については、市ホームページにふるさとチョイス等のサイトへのリンクがあり、そこから返礼品を見ることができる。野菜のセットや亀岡牛等の返礼品がある。また今回の災害等の関係では、全国的にもそうだが、災害支援としての寄附もある。

後半の説明は、昨年度からの変更点の確認である。四半期から半期の進行管理に変更したこと、そして収納率の目標算出方法を過去3カ年で一番高い収納率を目標に統一したこと等である。客観的な数値目標となるため、これまでから改善されている。

この平成30年度の実施計画の変更点と確認事項についてはこの内容で了承いただけるか。

《委員了承》

4 その他

(1) 行財政改革の取り組みについてのアンケート調査結果

資料5

事務局 《資料に沿って事務局から説明》

会長

次回の行政改革推進委員会は11月に開催予定であるが、今期の委員会は今日が最終の予定である。これまでの取り組みを振り返り、今後の方向性を出していくためにアンケートを行った。

項目の立て方についてもアンケート内容に入れて、従来にとらわれずに提案してはどうかと投げかけたところである。来期以降の亀岡市の行財政改革のあり方ということも含めて意見をいただきたい。

A 委員

行革推進委員会は、今のままでは不要だと思う。人口減少がさほど大きな問題として捉えられていない時代の行政改革のチェックとして大きな役割を果たしてきたが、人口減少は待ったなしで、27年後には市の人口が3割ほど減少する見込みである。それに向けてどう行政運営するかということを議論しなければいけない。今は収納率を何パーセントアップするという目標を立てているが、収納率を上げていくことは当然のことである。それよりももっと抜本的な改革を目指さなければいけない。人口減少の中で、どのような市民サービスを考えていくかだと思う。例えば経常収支比率を何パーセントに抑えるかという目標を設定しないと意味がない。収入と支出の両方見た上で目標値を達成するためにどのような取り組みを行うか。それに伴って職員数をどうするか、IT化をどのようにしていくか。本気度を出していき、住民にフルセット型の行政は無理ということ伝えていかなければいけない。行革でその覚悟を示す。目標値を市長等が定め、そのチェックを住民サイドから見る機関、そういった委員会にしていかないといけない。

事務局（企画管理部長）

市では、現在、地域こん談会を行って住民の皆さんと話をさせていただいているところである。この前の災害では、被害があったけれども、それぞれの地域で市民の活発な取り組みが行われていると感じた。みんなで支えるまちづくりが必要だと思っている。これから人口減少、高齢化社会の中でどうしていくのかということを見定めていく中で、亀岡の魅力づくりが必要である。施策を進める中で市の魅力をアピールし、多くの方に亀岡に来ていただき、魅力を知っていただくこともひとつの施策だと思っている。今いただいた御指摘、御意見を受け止め、行政改革推進本部会議で議論していきたい。

E 委員

本日初めての参加で、委員会の議論の範囲を十分把握できていないのかもしれないが、今日の議論の対象はどちらかというと流動資産である。私は、これから問題となるのは固定資産だと思う。これが委員会での議論の対象となるかは分からないが、地域こん談会で、水道管が老朽化しているため、水道管の更新を要望すると、市からは財源の問題があることを回答される。それは水道事業の問題だということで委員会では議論はしないということであれば仕方がないが、市庁舎や市内の学校等も年数が経っている。固定資産の経年劣化に対してどのように対処していくのか、人口減少の中、税収が見込めないことも考えると、そのようなことも全て含めた議論をしていく必要がある。流動資産も大切だが、固定資産の維持管理を今度どうしていくかも委員会で議論できればと思った。

事務局（企画管理部長）

亀岡市では公共施設の管理計画を立てているが、学校や公民館等の建物が主となっている。しかしインフラはどんどん経年劣化していく。このような中で、どのような計画を立てるかは非常に難しい問題である。

もう一つは、先ほどの災害の話で、亀岡市には200を超えるため池がある。ほとんど山間部、中山間部に位置する。このため池をどうするのか。予算のつかない中でしっかり守っていく対策が必要となってくるが、単独の市町村で財源を出していくことは困難である。国や府で財源の捻出方法を検討していかないと継続できないのではないかと考えている。道路や橋梁、下水道管等も重要な課題であるので、庁内でも連携しながら取り組みを考えていきたい。

会長

国も自治体も危機は感じている。国からの指示では、各地方自治体の公共施設の総点検をして計画を立てて、計画が進むにつれて、一定の補助を出すというものがある。

A 委員

各種審議会や委員会の見直しもテーマとなるのではないか。

C 委員

長く委員を務めさせていただいている。その中で、水道事業における問題や市立病院がどうなっているか等の問題は、この委員会で審議することではないことが分かった。では、どこがするのかというと、先ほど出た審議会である。この審議会がどのような構成になっていて、うまく進めているかを見るのが行政改革推進委員会であると思う。改選後の委員会では、審議会の見直しをテーマに取り上げてもらいたい。

H 委員

行政は計画を持って進めており、計画のない行政はない。亀岡市総合計画審議会の進行管理部会等で行政評価を実施しており、そこには市民メンバーも入っていただいている。行革の取り組みをチェックするのが行政改革推進委員会である。部門が分かれており、全てを見て評価をすることは限られた時間と限られたメンバー、多くの事業項目がある中では難しいこともある。今回はこの点について掘り下げて議論をするという形をとることも必要だと思う。

またバランスシートについては、全ての総務省の指導により自治体が決算ベースで作成し、ホームページ等で公表している。行政側もそれを市民に説明するとともに、市民の皆さんと議論していくことも必要だと思う。

今まで、富の再配分という形で税収が右肩上がりであがっていた時には、市民の方にどのような形で配分していこうと考えていたが、人口が減少していく中で、行政サービスを求められるのであれば、その負担を誰がするのかということも考えていかなければいけない時代だと思う。

B 委員

人口減少が急速に進む中で、税収が減ることは明らかである。今後の亀岡市をどうしていきたいのか市民も思いを持っているのではないか。行政だけではできない課題もある。情報公開をして、行政も市民も一体となって納得して見通しを立てていかなければいけない時期に来ていると感じている。行革もそこを考えていかなければいけない。

会長

その他に御意見等がなければ、以上をもって本日の協議事項は終了する。

事務局（企画調整課長）

木藤会長には、円滑な議事進行をいただきありがとうございました。また、委員の皆さまには、大変貴重な御意見をいただきありがとうございました。今後の行政改革にいただいた御意見を反映していきたいと考えている。

閉会にあたり、2年間に渡りお世話になった委員の皆さまに、企画管理部長から一言御挨拶

拶を申し上げます。

5 閉 会

事務局（企画管理部長）

委員の皆さまには、平素より行財政改革の推進に、格別のお力添えをいただいていることに感謝申し上げます。また、本日は大変お忙しいところ、御出席いただき、厚くお礼申し上げます。

委員の皆さまには、平成29年度行財政改革実施計画及び収納率向上対策に係る取組結果、そして平成30年度行財政改革実施計画について、貴重な御意見をいただいた。

第17期委員の皆さまには、卓越した御見識と豊かな御経験により貴重な御意見、御提言を賜り、心から感謝とお礼を申し上げます。

亀岡市では、人口減少・少子高齢化社会の進展等により、厳しい社会経済状況が予想されるところだが、「亀岡市行財政改革大綱 2015-2019」の目標に掲げている「持続可能な行財政運営を推進」するため、職員一丸となって改革に取り組んでいく。

今後とも本市行財政改革の推進に、御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後となったが、皆さまの御健康、御多幸をお祈り申し上げ、お礼の御挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

以 上